京城新報

●新聞料 [illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 五月廿五日
發行兼編輯人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

農銀資金充實に就て

母國今期の全國農工銀行大會に於て農工資金充實問題に關し銀行側委員は屢々政府當局者と會見し彼我意見を交換したるが其結果銀行側請求四案の內資本金增加案は來十一月の大會迄双方一層研究を重ぬることに決定し資金融通案及び利率引上案は各自調査書を提出して近々更らに交渉することゝなれるが資金融通に關しては政府は三百萬圓位の範圍にて融通することゝなるべき模樣あり利率引上案に就ても多分銀行側請求通り五厘引上に決定すべく察せらる府縣公金取扱案は當局內部に意見の一致せざる點あれど

先づ銀行側豫期の成効を云ふを得べしされば今期の農銀大會は例年に比し出色の効果を擧げたるものといふべく資金充實の一部目的を達したるを多とせざるべからず然れども吾曹翻つて思ふに充實せられしとする資金は限りあり今後放資の撰擇に細心の注意を拂はずんば數年ならずして又々現狀以上の窮迫を訴ふるに至るべきは疑なき所なり此の如きは獨り母國の農工銀行のみにあらず韓國各地農工銀行にありても均しく研究に値する問題たるなり經驗に富める銀行當局者と賢明なる政府監督者は其邊の心掛に遺漏あるべき筈なかれど所謂千慮の一失弘法も筆の誤あり吾曹の言永く杞憂に終らば國家の慶事なり

論ずる迄もなく農工銀行は農工業の進步發達を促かすが爲めに設けられたる特種の金融機關なりされば銀行當局者は深く此目的を服膺して放資の撰擇を怠るべからざることなるが地方は特種事情の纒綿することも多く動もすれば情實に流れて放資の方針を誤るの憂なきを保せず吾曹未だ農工銀行の貸付原簿に就て研究踏査したるにあらざれども其貸付が從來多くは一口巨額のもの多く從つて資金融通の恩澤を蒙むるものは地方小數の農業者に限られたるの弊なきやを疑ふなり更らに吾人は農工銀行の放資が元來長期固定の性質を有するに氣を弛め事業の性質緩急償還の確不確を精査せざるが爲め償還期限に至るも事業の成績擧らずして回收に難く延期せざるを得ざるに至るものなきやを憂ふ

大農組織を採らざる我國に於ては小資の農業者に資金融通の便を與へたるにあらずして一般農業の進步改良は望むべからず必ずや廣く一般の農民に普及均霑せしむるの方針に依らざるべからず素より一縣一農工銀行の薄資にては余り多くを望むべからざるも出來得る丈け如上の方針に準して放資を撰擇せんことを切望せざるを得ず是に於てか吾曹は彼のライファイゼンの土地同盟組合に則り一村若くは數箇村の團体にて信用組合を作るの必要を感ず其方法組合員は一定の時期に一定の掛金をなし集りたる掛金は組合員に限り一定の制限內に於て相當の擔保を取り融通するを得るの制にして一は貯蓄を奬勵し一は農業資金を融通するの作用あり一縣一農工銀行にては一小村落の末迄も其恩澤を蒙ること頗る難事なるが上に我國の如き小組織の農業にありては最も此制度の有益なるを感ずること切なり農工銀行の貸付金が長期に亘り固定すべきことは其性質上當然のことに屬す然れども長期といふも程度のあることにて長きは二三十年に亘るべく短きは期年にして回收することを得るものあるべしされば銀行の當局者が事業の性質と緩急とに注意し比較的回收の容易にして農業の發達改良に影響多きものを先きにし猶餘力の存するを見て然る後其次ぎに及ぶの方針を取らば庶幾くは多少窮迫の狀態に遠かるを得べきか徒らに農業資金の性質に心を弛め事業の性質と緩急との取捨を誤らんか幾回資金の充實を重ぬるとも窮迫の狀態を脱すること能はざるべし吾曹深く銀行當局者及政府監督者の猛省を望む

小說

新不如歸（四十三）

篠原嶺葉著

姑の返辭の爲やうが、如何にも實家へ行くのが不服らしく響いたので、まだ尾花家の家風に馴れぬ百合子、殊に姑の氣心の解りかぬる百合子は、ハッと驚いて、寧そ實家へ行くのを止さうかと、咄嗟の間に千々に心を碎いたが、何か話さねばならぬ用向あればこそ、態々迎への人を寄越されたものを、行くと云つて歸しながら、若も此まゝ行かなかつたら、常から慈愛深い母は、何事か起りはせんかと甚麽に心配されるであらう、と思ふ考へたので、恐る/\姑の顔色を伺ひ、

『では、どうぞ直に歸つて參りますから』

『……』

と、情を含ふ如く云つたが、奈加子は聞ぬと云つたやうに、ゐれには返辭も爲なかつた。

百合子は起つにも起たれず、姑の嫁に辛しとは豫々聞きながら、さても聞きしに勝つて辛いものと、かゝる冷き情に馴れぬ身の早や涙の差含まるゝを、チッと耐へて、漸くに何んとも就かんれ叩頭をして室を出たが其時はもう涙はほろ/\と落ちるのであつたが、若誰かに見付られても爲てはと、密と袖に拭ふて、其まゝ自分の室に入り、手早く身繕ひして、氣兼する身の車にも乘らず、女中をも連ずして尾花家を出たのである。



霜月中旬過の日は氷川社頭の森蔭に落ちて薄ら寒い風が所々の庭樹の梢を渡り、落葉が片々と散つて居る夕景色の道を百合子は其愛らしい眉の邊に愁の雲を潛め、姑奈加子の不機嫌を案じつゝ漫に歩むのであつた

『どうして阿母樣は那樣に御機嫌がお惡いか知ら、私何にも御機嫌に障るやうな事爲た覺はないけれど……殊に依ると旦那樣が私を餘り可愛がつて下さるから、それがお氣に障つたのか知ら……いや/\夫婦間の宜いのは喜んでこそ下さる理、御氣に障らう理はない、猜且妾の僻見だつたか知ら、けれども彼の時のお辭と云ひ、お辭の樣子と云ひ奈何思つても僻見とは思へない、して見ると何かお氣に障つた事があるに相違ないが何がお氣に障つたか知ら世馴ぬ、妾の事だから、必然お氣に入らぬ事があつたに相違ないけれど、それなればそれと教へて下されば甚麽事でも有仰る通り致すもの……まだ物の二十日にもならない中から、もう阿母樣の御機嫌に入らないやうでは、い此先は奈何すれば可いか知ら……呼々折角思ひ思つた所へ嫁付いて來れば、這麼苦しい思をせんければならないし、世の中の事は奈何して思ふやうにならないものか知ら、と悄く呟て、九條家の正門の前あたりまで來ると突如に

『いや、先刻は失敬しました、何方へ被入やいます。』

百合子は餘念なく姑の事のみ考へつて歩む折からとて、驚いて其人を見れば、誰あらう見るも厭はしき足柄少佐が、あらずとも赭顔を一層赤くして酒氣を匂せながら突立つて居るのであつた、ハッと思ふと早や心臟は亂調の鼓動を始めて、軀は自から顫へるのである、けれど百合子は我と我が心を叱して、

『おや、誰方かと存じましたら、足柄さんで被在やいましたか。誠に先刻は失禮致しましてございます、唯今お歸りがけで被在やいますか、どうぞお寄りなすつて下さいまし』と心にもなき世辭を殊更に云つて少に微笑むのであつた。

足柄は例の險のある目をドロリとさせて、百合子の顔をながめつゝ

『寄つて遊びたいは山々ですが、貴方がお不在ぢや舍しませう、尾花一人では面白くも何ともありませんからね、はゝゝゝ』と心ありげに云つて高く笑つた。

百合子は其の無禮な辭に憤とはしたが兒の秘密を知る彼男には怒りもならず、

『何うぞ實家まで參るのですから左樣御言ずどうぞお寄つてお遊び下さいませ、何うも失禮致しました』

と一禮して行かうとするのである

『大層お急ぎですね』が、些とお待ち下さい私貴女に少しお話したい事がある、まあお待ちなさいと呼び留めた。

▲京城醫師案内▼

京城西小門通り
京城醫院分院
院長 菅恒

黴毒
皮下注射療法
包莖無痛手術
內外科 婦人科
眼科 小兒科
京城南大門通一丁目日の出旅館に
戶田病院

明治町一丁目（本町座前）
內外科 眼科
入院隨意
松岡醫院

見習看護婦募集す希望者は本人來談あれ
新皇城
大漢門前
日韓病院

內科
外科
婦人科
入院隨意
京城南山町二丁目
植村病院
（電話三三〇）

入院隨意
京城壽町三丁目（元阪井病院跡）
高井醫院
（電話二一六番）
院長 陸軍三等軍醫正 高井貞治

病室新築入院隨意
內科、小兒科、花柳病
眼科、外科、婦人科
京城壽町三丁目
清水材木店跡
中島醫院
院主 醫學得業士 中島貞信

入院隨意
京城旭町三丁目
十全病院
電話七三七番

入院隨時
內外科
小兒科
產科
花柳病
京城旭町一丁目
安東病院
電話九一三
院長 安東貞一郎

入院隨意 各科診療
共立病院
京城本町六丁目

法の上に眠る者は法律之を保護せずと苟も法の擁護に依り權利の伸張を圖らんとする日韓人士は學識經驗兼備の斯業専門家に依囑して其實行を確保せられよ

營業要目
一、民刑商事非訟事件の鑑定
一、同上事件に關する書類の作成
一、登記申請證明査證願に關する書類の作成
一、會社銀行組合の定款契約書類の立案
一、鑛山土地家屋の製圖測量
一、債權の取立讓受紛議の仲裁
一、個人團体法人の法律顧問

明治大學出身
増本好三郎事務所
京城本町壹丁目（電話六二四番）

支店開設
夏物和洋硝子食器洋燈類卸小賣
大阪東區南本町四丁目
駒井商店特約販賣
京城硝子製造所販賣部
京城本町三丁目
林豊商店
京城南大門通り三丁目
林豊支店

シンガーミシン
月賦販賣及賃貸、一時拂は更に低減
使用法無料出張教授
京城西小門內
シンガー裁縫機械會社

カルヽス溫泉開業御披露

今般龍山新市街地に於て土地高燥風景佳絶にして交通便利なる漢江通りに地をトし茲にカルヽス泉を直輸入し溫泉場を新築開業仕り娛樂的設備として階上に御休憩場を設け湯茶新聞雜誌碁將棋等を備へ付け他にコーヒー店の設備等を爲し可嚀親切に御待遇申上且三階運動場よりは龍山新舊兩市街を眼下に見下し遙に京城全市街を目前に望見し春色雪景の眺望は勿論夏期は樓上の涼風に炎暑を忘るゝの好溫泉場に御座候間何卒開業當日より陸續御入湯被下度偏に奉懇願候
追而今廿三日開業仕候間向三日間は入浴券半額に可致候

龍山漢江通三丁目十三號地
主 り 德
カルヽス溫泉

◉蓄音器 各種
新譜 新音譜 各種 新荷着
東京三光堂 蓄音器韓國總代理店
京城本町
辻屋
本店電 二四八
支店電 三六六

京城新報

東洋拓植役員撰任

區々たる感情及び或る嫌惡なる政爭の爲に久しく行悩めりと聞く東洋拓植會社も大勢の爲には之を遮斷すること能はずして遠からず創立せらるゝ形勢を現はせり、帝國の大陸政策に於て滿洲と相俟て韓國拓殖の大經營をなさゞる可らざる既に余輩の屢々說ける所なり、晩近其成立難を聞けるまゝ其否を論難して警告を與へたりき、然るに機運は當局者を促して創立の急を感せしむ、余輩は或る一派が其否を覺りて創立の機運を速ならしめたるを歡喜するものなり。

而して余輩の聞得たる所に依れば、曾禰副統監は西園寺首相、松田藏相、松岡農相等と相會して創立の順序、委員の撰任に就て凝議し粗ぼ纒りたりと、創立委員長及總裁の撰任に就ては未だ確たることを知る能はずと雖も、宇佐川中將の總裁は略ぼ確定せるが如き說あり、中將が陸軍に於ける韓國通のオーソリテーなることは嘗て余輩の述べたるが如し、中將の總裁たることに於ては余輩素より異議を有せざるなり、總裁には恰當の人物を要することは言ふ迄もなし、創立委員長及び總裁を補佐して實際に活動して能く誤りなからしむる創立委員及び役員の撰任も亦忽にす可らず、聞く當局者に於ても茲に注意する所ありて、韓國在留邦人實業家有志家中よりも撰拔するの議ありと、當局者にして事實茲に想到して此議ありとせば眞に嘉すべきことにして會社の爲に最も幸なる事とす、若し夫れ統監府施設の如く韓國の事情を知らざる者のみを擧げて創立委員となし役員となし、之に盲動せしむるに於ては其經營の失敗は今より豫言するに憚らざるなり、統監政治失敗の原因は何處にありやと云はゞ、韓國の眞相に通せざる爲に起因する所多し、既に統監自身が韓人の眞相を誤り懷柔策を取りて痛く失敗せるの形跡あるに非ずや、而して幕僚にも之を補佐して誤なからしむる人なし、之れ抑も韓國經營に多年の實驗を有せる士を驅けて何等實驗なきものをして局に當らしめたるが爲ならんか、斯の如きものにして何ぞ統監を補佐して誤なからしむることを得んや、拓殖會社にして誤て在留邦人中の資産經驗ある士を逸し所謂門外漢のみを以てすれば統監府の失敗を繰返すのみ、若し夫れ之等在留邦人中の粹を度外視して事を爲さんとすれば失敗を屢々繰返さゞる可らず、更に眼を轉じて韓人側の撰任に想到せざる可らず、當局者亦深く考る所あるべきも要するに渠等は實際に亘りて何等の効用を爲さゞるべし、唯員に列するのみの人物を撰任することゝすべし、所謂半可通なるものを容れて徒に嘴を容れしむるは偶々以て事を繁雜にするのみ、余輩は以上の二點を擧て當局者に深く注意せんさするものなり

東京電報

▲在野黨聯合會

昨夜在野黨の聯合會を開けり各派漏れなく參會し總員二百五十名にて加藤政之助氏の挨拶あり更に日を期して民黨の大親睦會を開くことゝなれり

▲拓殖創立委員内定

東洋拓殖會社創立委員長は勝田理財局長同委員には織田一 松崎藏之助等と内定せり（以上二十三日）

▲海軍大演習

本年秋十月擧行さるゝ海軍大演習には東鄕軍令部長總統監となり天皇陛下には觀艦式にのみ臨幸さる

▲松島艦絕望

齋藤海相は松島沈沒原因調査を了し馬公より歸途に就けり同艦の損傷は重大にして到底引揚の見込なし

▲大岡力氏の送別宴

大岡力氏送別會昨夜芝三緑亭に開かる各新聞記者通信員の外吉原三郎、柴田家門、荻原守一、中川彦吉、岡崎靜彌、野田卯太郎其他朝野の紳士百名參會し黑岩周六氏送別の辭を述べ大岡氏の答辭あり後志賀重昂氏の韓國談をなし九時散會せり（以上二十一日發）

群山電報

▲漁船難破

本月十八日暴風のため忠淸南道舒川郡ロク島及び庇仁郡パリヨウ附近沖合に出漁中の漁船難破せし旨急報あり當地警察署より巡査を派遣取調べたるに難破船七、溺死二（内死体一發見）行衛不明漁船二、同漁夫六あり尚捜査中なり（廿一日發）

雜報

●韓國勸業銀行

韓國にれける金融機關としては第一銀行、十八銀行および五十八銀行支店等あるも右は普通銀行の業務を營み居るものにて土地および不動産に對する長期の貸附をなさず又韓國農工銀行の各地に設置せられあるも其規模極めて小にして格別の効果なきを以て不動産を目的とする特種の銀行を設置するの必要ありとて伊藤統監は最初一千萬圓位の資金にて勸業銀行を創立せんとの意見を抱き居りし由なるが其後副統監の意見もあり遂に資本金三百萬圓を以て之を創立するに決し過般來歸京中の副統監は政府と打合中なりしが政府にれいても之に贊同し十八日の閣議にれいて之を決定せし由にて結局各地の農工銀行を合併し三百萬圓迄資本金を募集する事となるべく韓國政府は年六分の利子補給をなし尚同銀行は五圓以上の債劵を發行するの特權を有するものなりと

●趙農相の訓示

農商工部大臣趙重應氏は昨日午前十一時各道觀察使を農商工部に召集し左の訓示をなしたり

本日茲に各道觀察使諸君を會同して其所信と希望とを陳告するの機會を得たるは本大臣の欣榮とする所なり

古語に謂はずや恒產なくして能く恒心ある者少しと其言洵に然り苟も人に恒心なく家に恒產なくして而も徒に國力の富強を期圖するが如きは得て望むべきにあらず

願ふに我邦は由來農本國たり將來亦主として力を農業の發達進步に致すと同時に他の一般商工業の奬勵開發に勗めざる可らず

然るに近古以來我邦に漸く實業を卑視し少しく文字を解する者に至りては擧て徒に官職に奔競し又空論に耽るの弊風を馴致し八域到る處として多數の遊衣徒食者にあらざるなく國本培養の如き復た敢て之を顧みる者なきが爲めに百般實業の廢退をして遂に今日の如く太甚しきものあらしむるに至れり洵に慨歎すべし

任に分疆の重職に在る各觀察使諸君は此の維新の時代に際し衆心の慰安を勉めらるゝは勿論深く之を鑑み之を察し專ら實業の奬勵發達に留意し斯民をして從來の弊風を一變し摯實に各其生業に從事し遍く恒產を得せしめられんとを希望す

又爾後は通例の報告以外諸君の注意を以て可成各種の意見を迅速に本大臣又は次官宛に提供せられたし

●不換紙幣の發行

伊藤統監には韓國政府財政遣繰の爲不換紙幣發行を思立たれ已に西園寺内閣へ向つても其意志を通せられたりと云ふ

●觀察使へ訓示

觀察使一同及び漢城府尹は昨日午前十一時より農商工部に參集し木内次官一場の訓示演說をなし終りて一二諸問案に就き審議せり明日は内部に參集し同部大臣及び次官より訓示演說ある筈

●一進會の紛亂

一進會は總理大臣李完用の不信任を決議し之に辭職を勸告すべしと去る十一日の評議員會に於て決したるも會長李容九は李完用は今後大に活動すべきを約したりとの旨統監より聞きたりと注意したれば總務局にては總代を派して上京中の地方會員に此旨を言聞け諭す所ありしに地方會員は之を聞きて大に激昂し亂暴を働かんとせし程なりしが爾來同會に於て此問題に逐日凝議する所あるも議論百出して何等決する所なく今や大に紛亂を極めつゝあり又た李完用邸に於ては地方より上京せりと稱する決死隊の者等何時辭職勸告に來るかと大に警戒し居りと

●國有未墾地事務處理の概況

農商工部國有未墾地課に於ける事務處理の概況を聞くに本年一月以來六月十五日に至る迄に

一、取扱ひたる文書は

受付	一千百二十八件
發送	九百五十六件
處分濟	七百九十六件
處分未濟	七百〇參件

にして其の處分未濟の多き理由は實地調査及び各種の交涉を要する請願多數を占め急速に處分し難きに出ると云ふ又

二、請願數及び面積は

貸付請願數	四百三十件	
同上　面積		三萬二千六百八十一町四反一畝步

にして昨年九月十五日即ち未墾地利用法實施以成の累計は左の如し

貸付請願	七百八十三件	六萬三千三百廿六町五反十五步
認證請願	七十二件	九千百十六町七反三畝九步
計	八百五十四件	七萬二千四百四十三町步二反三畝廿四步

三、地方官に請願地の調査を訓令したる數

訓令を發したる數	四百七十三件
右に對する報告濟の數	二百參拾五件

四、請願地實地調査數は

調査件數	百七十六件
調査個所數	百六十一ヶ所

にして昨年九月十五日事務開始以來の累計は左の如し但し件數と個所數の一致せざるは競願あるに由る

調査件數	二百四十九件
調査個所	二百四ヶ所

五、許可の豫定を以て實測圖の提出を命じたる數

提出を命じたる數	百十三件
右に對し既に提出したる數	四十一件

六、許可したる數

認證	五件	四百七十七町六反七十八步
貸付	八件	百四十一町三反八畝十四步

七、許可の手續中に屬する數

認證	二件	二百八十二町五反三畝七步
貸付	十一件	八百廿五町九反一畝廿一步

八、許可以外の處分濟數は

不許可	五件	百四九町五反九畝二步
國有未墾地に非ざるより却下したるもの	六十一件	三千六百七十四町四反四畝廿四步
主管違により他に引繼ぎたるもの	十二件	三千二百八十二町九反廿八步

にして昨年九月十五日以來の累計は如左

不許可	五件	百四十九町九反九畝二十五步
國有未墾地に非ざるため却下したるもの	六十一件	三千六百七十四町四反四畝廿四步
主管違により他に引繼ぎたるもの	十四件	三千八百八十一町六反三畝八步
計	八十件	七千七百〇五町六反八畝十二步

以上の如くにして今回帝室有未墾地を國有に編入せらるゝ事となりしを以て今後續々出願せらるゝものあるべきも今日迄に出願せられ居るものは本年中に實地調査を了し出來得る丈急速に處分する方針なりと云ふ

●國有未墾地出願者の注意

別項記載の如く未墾地利用に關する出願は頗る多數に上れるが出願者中には充分に目的地の調査を遂げずして圖を調製し願書を提出せるものありために當局に於て實地調査に着手したる際國有に非ざる事を發見し甚しきは既墾地を草生地として出願せるものあり徒らに手數と經費を煩はすのみにして相互の不利益を招きたるもの少からず殊に實測圖の不完全なるため許可せらるゝものも空しく日子を費す事あり出願者は右の點に注意せざる可らずと當局者は語り居れり又沼澤地の利用を出願せるもの多きも沼澤地の多くは韓民が溜池として利用せるものにして平素は荒廢に歸し居れる觀あるも一旦雨期に及べば溜池と變するものなれば是等は充分に調査を遂げ全然右の關係なきものに非ざるよりは其の利用を許可さるゝ事なきを以て沼澤地の出願は最も注意すべしと云ふ

●仁川市況不振と空家

昨年來數度の大火と市況不振とに依りて仁川港の空屋は日を逐ふて增加し今や三千九百餘に對するに約七百の空屋を有するに至れるが開港以來實業に從事せる某氏の談に依れば昨今空屋の多きは世人の等しく首肯する處なるが玆に最も注意すべきは從來に比し本通りに空屋多きことにて目下目拔きの場所と稱せらるゝ本町通公園地通宮町通り等の大賈巨商の間に多數の空屋が介在せるは開港以來未曾有の事なりと云ふ今比較的精密なりと稱せらるゝ仁川警察署調査の現在戶數並に空屋の數を揭げ所謂全盛時代と稱せらるゝ卅八九年のそれと比較對照すれば左の如し

	住人戶數	空屋
三十八年十二月末	二、八五三	一八五
三十九年三月末	二、八九六	三九七
同　六月末	三、〇八七	三三五
同　十二月末	三、二五九	三二八
四十年六月末	三、二二五	一六四
同　十二月末	二、九九二	四四八
四十一年一月末	三、三三六	五一〇
同　二月末	三、四九三	五五一
同　三月末	三、一六一	五四四
同　四月末	三、一七六	四九九
同　五月末	三、一〇七	六八二

●金銀貨地金輸出入高

本月中旬仁川港に於ける金銀貨及び地金の輸出入額は輸出四萬百圓、輸入十萬圓にして五萬九千九百圓の輸入超過なりと

●鐵鑛石輸送增加船

載寧及金山浦より採掘する鐵鑛石は鎭南浦の回漕業者中村精七郎の一手輸送に係るが同回漕店にては既に瀛船佐渡口丸、瓊浦丸の二隻を借入れて鎭南浦若松行の航路に宛て專ら其輸送に力を盡し尚屢々臨時船を廻して輸送しつゝある由なるが聞く所に由れば去月中約八千噸の輸送をなしたるが尚幾分の不足を感ずる由にて目下更に瀛船一隻借入の交涉中なりと云ふ

●駐韓憲兵補充

曩に增派せられたる憲兵中人員不足に依り又は事故等にて欠員を生じ居りしを以て七月十日より二十日迄の間に憲兵百名の補充を見るべしと

●憲兵補助員將校決定

陸軍騎兵參領朴承吉同步兵正尉金泰兄の兩氏は既に憲兵本部に於て勤務中なるが二十二日を以て左の諸氏左の分隊附補助員將校として決定せり

京城分隊陸軍步兵正尉張寅根天安分隊步兵正尉徐丙德咸興分隊砲兵正尉權承縚大邱分隊工兵副尉金領彬平壤分隊步兵參尉李承喬榮山分隊步兵參尉朴東元

●共進會出品勸誘

本年九月二十日より十一月十日まで長野縣長野市に開催さる可き東京府外十縣の聯合共進會に當韓國よりも出品する樣目下統監府より會議所を通じて勸誘中なり

●ベッセル監禁所に向ふ

禁獄三週間譴責六ヶ月に處せられたる大韓每日申報前社長ベッセルは英國總領事館に監獄なきと京城に同人を收禁すべき監獄なき爲め上海の英國監獄に收禁することゝなり去る二十日午後五時三十分發の京仁線に投じて下仁し同地より乘船上海に向ひたり

●憲兵補助員應募成績

憲兵補助員は各憲兵分隊に於て募集の準備中なるが既に京城内にのみにても二百名を超過せんとし又京城に遠からざる高陽にても二十名の多きを見其他各地方も好成績にて應募者多き模樣なり而して京城憲兵分隊に於ては二十三日より身体檢査を行ひ五管器能完全にして且つ体格の壯健に充分勤務に耐ゆる者を撰拔し採用するものなりと因に今回の應募者の大多數は解散兵を以て占め居れりと云ふ

●閔宮相の招宴

閔宮相は二十日前宮相及び宮内府日本人官吏奏任官以上日韓人官吏勅任官及び奏任官課長等約四十名をソンタク邸に招待して新任披露をなせり同日午後七時二十分食堂を開き閔宮相の挨拶に次で李前宮相趙承寧府總監小宮次官崔内藏院卿交々起て卓上演說をなし新大臣の就任に對する祝意と將來の希望とを述べ其の間軍樂隊の吹奏あり十一時散會せり

●長谷川大將の歸京

南韓及平壤地方視察中なりし長谷川軍司令官には本日午後六時四十分の列車にて歸京すべし

●英國提督來韓

英國東洋艦隊司令長官ラムトン中將（ムア中將後任）は一昨日軍艦アランハチー號にて仁川に來着統監には本日晝餐に同中將を招待せられ韓國皇帝には同日午後謁見を賜はることに内定せり同中將は一兩日滯任の筈なりと

●丸山警視總監の内部訪問

丸山警視總監は昨日午後一時内部に宋大臣及び岡次官を訪問せり

●岡次官の登廳

岡内部次官は轉任後昨日初めて内部に登廳し宋大臣と會談の後午後一時より部員一同を集めて新任の挨拶をなし劉衛生局長一同を代表して答辭を述べ終りて宋大臣と共に各局課執務狀況を巡視せり

●露國文豪

來遊中の露國文士ダンチエンコ氏は昨朝出發黑田左久馬氏同行平壤に向へり

●菊地謙譲氏

東上中なりし長風菊地氏は一昨夜無事歸城せられたり

●若松元山理事官

若松元山理事官は廿日來京巴城館に投宿せり

●辭令

十七日附

宮内府飜譯官從七位勳八等　武田尙

兼任統監府通譯官叙高等官六等

公人私人

△磯部照明（正金銀行員）一昨日來京巴城館
△堀江幸市（平壤地方裁判所判事）一昨日歸任
△鳥山虎也太（大邱同上）同上
△吉田雄六郎（大邱地方裁判所檢事）同上
△鈴木五七郎（黃州裁判所長）同上
△關口半（同檢事長）同上
△土井庸太郎（大邱控訴院長）同上
△西平（海州裁判所々長）同上
△元木直一（平壤裁判所長）同上
△勅使河原健之助（公州裁判所長）同上
△永島巖（平壤控訴院長）同上
△向井巖（同檢事長）同上
△兼重次郎（平壤地方裁判所長）同上
△岩田孝慈（公州同上）同上
△岩本以明（咸興地方裁判所長）同上
△平石氏八（都督府高等法務院長）同上
△荒木貞雄（東京朝日記者）一昨日歸京

●近事片々

▲完用 內閣動搖も一進會の壓迫あるも地盤は更に堅確となれりと噂するも疑はし
▲併し 李宋の暗鬪は益々甚し稍もすれば破裂せんとする模樣に見ゆ是でも堅固乎
▲宋内 相獨り奮鬪するも多勢に無勢如何に背後彌陀の光を負ふも何さなく氣遣はし
▲祖國 の新聞紙に映ずる宋秉畯は隨分豪傑らしく見ゆ實際の人物を知る者は失笑す
▲統監 が宋は栗の實の如し破れば中々甘味有杯と持上るから殊更に豪らそうに見ゆ
▲愛國 志士講習會に金允植及其一派打集ひて何事か頻に凝議する所ありとは何事乎
▲後繼 内閣の相談なりと風說する成程其出入の人物を見ては此說起るも無理ならじ
▲帝室 財產國庫移屬に就て雜費等今尙囂々として不服を唱ふと困つた沒分曉耳多し
▲巫女 を招て之が復舊を占はしむ巫女亦之に應じて種々放言せりと斷然膺懲すべし
▲西園 寺首相官邸に曾禰松田松岡等相會し財產及東洋拓植に就て頻に凝議する所有
▲此會 合に於て拓植會社創立議漸く熟し更に好況に一轉進を見べきの說あり如何
▲勸業 銀行設立は久しく伊公の胸底に存したる處曾禰子の斡旋により愈々運べりと
▲資金 三百萬圓にて韓國政府年六分の保證也と土地抵當の貸付に大に便宜を與ふと
▲宋内 相登廳して官房に吏員を集て諄々訓諭し大臣官房に濫に入る可らずと嚴達す
▲宋氏 近來の言動隨分凄まじく嚴乎として訓ずる所日人官吏迄が恐縮すとは怖し
▲完用 曾て全北觀察使時代に李根培より數千圓家貲として借入れ今に之を返却せず
▲而も 當時完用生計困難の爲に借入たる恩金根培頻に催るも兎角不得要領とは忘恩
▲京城 、日報社長大岡力主筆法學士原田豐次郎兩氏は廿四五日頃着城の筈なりと云ふ
▲兩氏 着城の上は同紙の面目一新せしむるものあらむと然り良御用紙の光を放たむ
▲米國 大統領の撰擧中原の鹿はレ黨のタフト氏ならむ近時デ黨の落莫は眞に可憐也

●韓人側活動寫眞會

愛國婦人會韓國本部[illegible]國有志者の爲め活動寫眞會を開催[illegible]由は既報の如くなるが右は來二十四日より廿六日迄三日間西大門内官人倶樂部（校[illegible]律社）に於て開催するに決定し其要項左の如しと

一、蓄音器　日韓音樂及俗曲等を演奏す
一、活動寫眞　大韓皇太子殿下御下賜東京御用邸に於ける大韓國皇太子殿下御遊戲の實況同御濱離宮内に於ける同殿下御鴨獵並御舟遊の實況其他興味ある活動寫眞數十種
一、音樂隊奏樂
一、期日　六月二十四二十五兩日は韓國男子に限り二十六日は韓國婦人に[illegible]る
一、入場劵
一、白劵金五十[illegible]　靑劵金二十[illegible]
二、右入場劵料中純益あれば追て[illegible]人の[illegible]善事業に寄附する豫定
三、大韓國婦人中愛國婦人會員として會員章佩用の者は入場劵料を要ずせ
四、入場劵は當日會場[illegible]て賣捌く又前[illegible]有志者に依頼し賣捌くべし

[illegible]七十五頭及人夫五十九貨物五百七十六個を積みて二十一日仁川に入港する豫定なりしが天候の爲か大に遲延して未だ入港せざりしが多分昨夜入港したるべしと

●商船仁川支店長送迎會

信夫理事官、和田觀測所長、遠藤郵便局長、富田民長、[illegible]頭原會頭發起となり本日午後六時より仁川倶樂部に於て元大坂商船仁川支店長居精一郎氏の送宴に新[illegible]歡迎を兼ね仁川官民有[illegible]

●韓人側活動寫眞會

[illegible]婦人會韓國本部[illegible]有志者の發起にて活動寫眞會を開催[illegible]由は既報の如くなるが右は來二十四日より廿六日迄三日間西大門內官人俱樂部([illegible]律社)に於て開催するに決定し其要領左の如しと

一、蓄音器 日韓音樂及俗曲等を演奏す

一、活動寫眞 大韓皇太子殿下御下賜東京御用邸に於ける大韓國皇太子殿下御遊戲の實況同御濱離宮內に於ける同殿下御鴨獵並鯛舟遊の實況其他興味ある活動寫眞數十種

一、[illegible]樂隊奏樂

一、[illegible] 六月二十四二十五兩日は韓國婦人[illegible]る

一、入場券 白券金五十[illegible] 青券金二十[illegible]

二、右入場券料中純益あれば追て[illegible]の[illegible]事業に寄附する豫定

三、[illegible]會員章保用の者は入場券を要せず[illegible]

四、入場券は當日會場にて賣捌く又前[illegible]有志者に依賴し賣捌くべし

[illegible]七十六個を積みて二十一日仁川に入港する[illegible]七十三頭及人夫[illegible]十九貨物五日[illegible]入港せざりしが多分昨夜入港したるべしと

●商船仁川支店長送迎會 [illegible]和田觀測所長、遠藤郵便局長、富田民長、[illegible]信夫理事官[illegible]

雜報

●充用の寵妾山月(下)

偖も美人山月は閔內政の寵妾となりて頻に謀略を授けて權勢を張るに余念なく、唯さへ奸黠なる閔は彌が上にも獰猾なる性質を現はし鋭を磨して時期の到來を待ち受けぬされども閔は充用の如く表面の鋭鋒はげしからずして、巧に責任を避けて圓曲に事を計るをもて充用を扱ひたる山月の眼より見れば痴痒き事のみ多く、徒らに歲月を經ぬる心地ぞせられてもどかしく、或る日の如きは熟らく閔の顏を眺めて喃う我夫よ人の命には限りあるぞかし、妾が君に計ることのなどてや斯くも後るゝぞ、若しも君に妾愛しと思召さるゝ心の露だにあらば、疾く計策を成就なして妾の心を休ませ玉へ長き浮世に短かき命の譬へもあるものを、君の如く氣長く事を爲し玉はゞ其中に意外の事も起りて計畫の外づるゝ事もあるぞかし、君よ妾の氣早きを咎むるなかれ、妾迚も君愛しと思へばこそ斯くも愚痴をならふるぞかし、君の榮達は妾の出世なりなど、われそかに君を思ふべきや、と嬌舌もて口說けども、そこは老猾なる閔の事さて容易にこれに乘るべきや、閔は表面溫厚らしき顏に微笑だにたゝへて、溫言もて山月よさな悔み玉ひぞ、我とても御身愛とし思へばこそ、御身の言はるゝまゝに謀策を廻らし一日も早く愛しき御身を喜ばせばやと思へるも、兎角に時運は來らずして思ひのまゝの事も出來ずされど下手に廻りてなまなか他人の犧牲になるよりもせめては人を犧牲にして我は蔭より甘き利を得るこそ賢き人の仕業なれ、我は表面にたちて權勢を張り人に怨まるゝよりも、帷幕にありて之を操縱して利を得るこそよけれと思ふとさゝやけば山月の眉はピリゝと動き心の中にはさても言ひ甲斐のなき男なるよ、かゝる意氣地なしにいつまで付添ふも詮なきことにこそ、それにつけても充用の君こそ頼母しくも亦利々しけれ、今は彼の若[illegible]戀ひ玉章もてこれまでのことを詫びしたならばよもや厭やとは言はるまじ、元木に優る接木なし玆に山月は[illegible]の罪を打詫びて只管舊情を暖めんことを認めやりぬ、奸婦の本性玆に愈々發揮して亦もや充用と再び厚く契るに至りぬ、實にや燒木の火の附き易く二人の中は何時にも增して濃厚なるになりぬ、二人の中に斯る關係の出來たりとは露知らぬ閔は山月が近頃の擧動怪しと氣付きては嫉妬のほむら留めがたく稍々探りたるに圖らざりき、元の充用と相與せるとはさても〳〵、當時の充用は勢力沖天に上り居る折柄なれば、老猾なる閔も玆に一思案を運らして、山月を充用に讓りて己も其勢力の下に一仕事せんと決心してこそありけれ、くに怖ろしける、さらば美人山月は猶子の如く轉々して亦も元の持主に返りける(をはり)

●本社員に非ず

△廣く一般の注意を促す

此の頃本社員吉岡某と稱して市中各所を徘徊し頻りに新聞社風を吹かす醜漢ありと云へど吉岡某なるものは本社員にあらざれば大方の諸君士は決して彼等醜漢の惡手段に欺かるゝことなからんことを倚今後若し斯かる擧動不審の者又は本社員吉岡など記載したる名刺持參者ありたる節は直に本社に通知あらんことを特に玆に一般の注意を促す

●京城樂友會

本月二十七、八の兩日午後七時三十分より京城歌舞伎座に於て開催すべき同會音樂會の演奏順序既記の通りなるが『プログラム』は左記の通にして入場券は特別券二圓、白券一圓、青券五十錢の三種にして辻屋日韓書房等にて賣捌く由なり

第一日

第一部

行進曲	陸軍々樂隊
觀世流仕舞(八島)	高橋 淺蛙
薩摩琵琶(櫻狩)	早川 菊丸
琴 (夏の曲)	中管 道雄 / 田中 嘯雲
寶生流謠曲(松風)	シテ 伊藤 松月 / ツレ 松島 春風
獨 唱(大海原)	加藤 滿子
八雲琴合奏(柚の露)	澤田 雪子 / 小田 初子 / 日下部 國子 / 多治比 松翠
淨瑠璃(忠臣藏本藏下屋敷)	村山 呂水
歌 劇	陸軍々樂隊
假裝舞踏 土耳古武官	本岡 魔川
洋裝婦人	吉川 靜波
印度武官	荻野 默笑
洋裝少女	若月 龍漱
紳士	井關 呉山
洋裝婦人	玉田 城陽
英國武官	眞田 寒竹
洋裝婦人	吉岡 茶坊

第二部

筑前琵琶(四條畷)	井上 千代子
琴 (松上鶴)	村田 檢校
觀世流仕舞(櫻川)	中川 五星
行進曲	陸軍々樂隊
尺八連管(倭鈴慕)	坂田 東水 外二名
八雲琴合奏(狂亂)	三宅 民子 / 某 會員
獨唱(新曲熊野)	山脇 參市
琴 (御國の譽)	中管 道雄
假裝舞踏 ビール	藤井 萩市
少女	若月 龍漱
獨逸武官	藤井 又花
洋裝婦人	百田 宵夢
統監	高木 鑑海
洋裝婦人	鈴木 白川
海軍武官	林 指月
洋裝婦人	難波 南洲
行進曲	陸軍々樂隊

餘興

活人畫(楠公訣別)、講談、劍舞等 (未完)

●鴉片の害毒

韓國人が近頃鴉片を服飲して自殺をなすもの頻々として堪へずとて殆んど毎日の韓字新聞に揭載せられつゝあるを見る鴉片は今や韓人自殺の最好武器として珍重せるが如し其證として最近の者を記すれば法部主事柳濟達死亡後其妻林姓女(二十)は悲嘆の餘り十八日夜書置一通書し終りて帷子を裂したる後香水を以て身を清め爪を剪り鴉片を吸飲して自殺したり次ぎは南部余洞居前議官朴弘逸の悴の妻も十九日鴉片を服して死す其次は抱川郡居前鐵道院技師成樂麟にて同人は同地方に於ける資產家の由なるも官途に就かんと多額の金錢を持參して上京し東門外に妾宅を構へ仕官を運動せしも其効なく擒て加へて所持の金錢は運動費に遣ひ果し今は生活にも困難を告ぐる身となり郷里に歸らんと思へども故郷には七十餘の老親と幼少の子息の飢に啼くありて之を見るに忍びずとてそれやこれやと考へた末は遂に十八日鴉片を服して自殺するに至れり此れ二日間の實例なり其他世間に現はれざるもの幾何あるや知るべからず鴉片の害毒は此の如く京城の內外に流れつゝあり今日に於て之を取締るにあらざれば將來の弊や測るべからざるに至らん豈に寒心せざるを得んや

●四人組の脅喝

旭町一丁目清水和平、安場健次、高橋河根松、森田岩吉の四名は先頃來市中某所に就きて脅喝がましき擧動に及びたるを其の筋にて逸早く聞込み遂に前記四名は孰れも南部署に留置され取調べを受けたるが其事實顯著なるにも係はらず未だ目的を遂したるにあらざれば堅く將來を戒められ若し今後再び斯かる擧動に出づるに就ては保安條例を適用して退韓を命ずべき旨申聞かせられて放免されたりと

●すし賣を毆る

兵庫縣生れ當時明治町二丁目田川福次郎方同居增井松之助(二十)は一昨夜十一時頃稼業の鮨を賣歩きて明治町二丁目飲食店萬遊樓に立寄りたるに豫て明治町一丁目京城組挽子中島鍛吉(三十)多田梅次郎の兩人がへゝのレゲになつて居り頻りに增次郎を冷評するにぞ增次郎も賣り言葉に買言葉二三の惡口を吐いて其儘同家を立出で丸山警視總監邸前まで赴きたるに前記兩名も其跡を追ひて立出で此に相方立廻りを初めたるが多勢に無勢增次郎は兩人の爲めに組敷かれ散々痛い目を見せられ悲鳴を擧げて救を求め居りたるを派出所の巡査出張して取鎭め一同を南部署に引致したり

漢城病院を辭して開業

齒科

京城南山町第一銀行横町
醫科大學專攻 統監府囑託
飯塚徹
仁川分院(仁川病院前電話二四六)(五、十の日飯塚徹出張)
仁川主任東京共立齒科醫學校前講師
藤井庄次郎

●不意に人を毆る

南部署大山林洞居住人力車業[illegible]は去る二十日午後四時[illegible]同署前[illegible]の宅前を通行せしに同[illegible]

●[illegible]家の雇人洪鐘善(二十)なるものが門內より出で來り物をも言はず突然同人の背骨を毆りしかば流は不意を喰つて非常に驚きしが傾て此奴不埒者と許りに洪に打つて掛り爰に兩人大立廻りを始めしが流は其の際面部に負傷したるより其の旨早速本署に訴へ出でたり

●韓人を毆る

軍司令部經理部臨時雇員福島乙助(三八)は一昨夜本町裏通りにて何の由緣も無きに通り掛りの韓人二名に喰つて掛り遂に毆り倒して負傷せしめたるを附近の人が可哀相に思ひ警察に知らせたれば警察官出張して乙助を引致したり

●擔軍毆殺さる

一昨日午後五時過東大門內洞口に於て擔軍等が酒幕にて飲酒醉の廻りし頃例の韓人のことゝて忽ち喧嘩を打初め毆り合ひを始めしが一名の擔軍は拳骨を以て頭部を毆たれ之が爲め腦震盪を起し其儘死去したり加害者は東署の巡査出張し直ちに捕縛したりと云ふ

●娘の自殺

二十一日午前八時頃南署茶洞前議官朴弘逸の娘某は阿片を仰ぎて死せし由大韓每日申報に揭載しあるより銅峴警察分署李警部は早速右の事實を取調ぶる爲め朴の懇意者南署廣通坊中茶洞十五統八戶朴方に就て逐一質すところありしに右の娘なるものは本月十七日より精神に異狀を生じ爾來日々鬱ぎ居りしが終に今回如斯無分別の事をなせしものなりと

●清國人の竊盜

清國山東省海南人にして當時韓國平安北道義州郡威化面北下洞住陳得宮(三十)は本月十四日午前一時頃新義州中島鴨綠江岸に碇泊し居りたる韓國帆船內に積める石炭外五點を竊取したるを以て同地警察署に於て取押へ鎭南浦清國領事へ照會中なり

●松樹を伐採す

一昨二十一日午前四時頃南署城隍堂等地の松の樹を竊かに伐採し居るものあるより巡回の巡査は直ちに引き捕へ本署に引致したるが共謀者は四人にて其の捕はれたるものゝ姓名は奬忠壇居住吳相旭(三七)なりといふ

●氣違ひ泥棒

大分縣生れ清水建之助(年齡不詳)は豫て竊盜を働きたる事ある者なるが一昨廿一日新町九丁目に於て田中鐵藏なる者に發見され其筋に突出されたるが此奴は精神病者にて其筋にても厄介な奴を擒き込みたりとて困じ居れりと

●迷兒歸る

旭町二丁目魚商中野大之藏長男進平(七)は一昨日午前十一時頃家出し行方不明となり一方ならず心配して居りしを停車場附近にて發見したる者あり其の家に送り届けたりと

●賍品の靴

旭町三丁目篠崎好衛は去る五月中短靴一足を盜まれたるが右の短靴は太平町一丁目韓人古物商朴水俊と云ふが南大門通り一丁目に陳列しあるを[illegible]を發見したるより其旨届出でたるが右は野田質店が賍品なることを知り乍ら[illegible]に質却を依囑したる旨申立てたれば目下取調中

●金貨を種に飲食す

一昨二十一日午前二時頃三名の韓人打連れて竹園町一丁目料理店三遊樓に赴き同家の酌婦みさを、きよの三人を相手に盛んに飲酒し午前四時頃迄騷ぎ居りしが扨て勘定の段となりて三人とも一文も持ち合せなく依つて同樓にても困却し居りしが中の一人懷中より十圓金貨を取り出し之を抵當に三圓二十錢の勘定を支拂はんと言ひ出したるも金貨は韓國に於ては通用せざれば詮方なく其の旨最寄派出所に訴へ出でしより警官出張取り調べたる所右金貨の持主は趙鼎濩(二十)と稱するものにて京城一銀行見習員として同行に勤務中[illegible]金貨を發見して珍物なりとて之を交換しもらひたるものなりと因て飲食代は趙の自宅に於て支拂ひたりと

●天然痘と膓窒扶斯

京城若草町[illegible]一丁目九番地小畠千代雄(三十)は二十日に、本町五丁目二丁目六十四番戶武藤[illegible](十九)は廿一日膓窒扶斯に、各天然痘に[illegible]

●奇特なる醫者

明治町二丁目宮永某は本年一月以來眼疾を患ひ居りしが病勢は日に〳〵[illegible]して果ては職業も働けぬ程になりしに不如意勝なりし[illegible]入り遂には日々の藥價にも[illegible]中絕するの已むなき悲境に[illegible]居りたるに一日或人の[illegible]明治町二丁目吉田病院に至り治療を賴みたるに[illegible]は大に同情を寄せ早速[illegible]開慈善的に熱心施療し[illegible]宮永は大に同氏を[illegible]

●工業大辭書

今回[illegible]工業大辭書[illegible]なる方法を以て工業大[illegible]す由なり

●西洋料理店の開業

今回大和町二丁目に西洋料理店を開業し上海ミストデン[illegible]の經驗を有する者を雇ひ食界に必ず好評を博すべしと

[illegible] (民) (庫) (文) ▲日本人が[illegible] ▲昨年は[illegible]

○土耳古金口煙草GD インペリアル 茶褐色スポルト 各種
京城代理店 歐米雜貨商
京城本町六丁目
岡野商店

大賣出廣告
正札より一割引き
開店祝七週年之爲平素御愛顧報大安賣仕候間陸續御來店之程伏て奉願上候
自六月廿日 至七月十日
京城明治町一丁目
田中靴店

夏季飲料
警視廳御檢査濟
ラムネ
京城旭町二丁目
技師藥劑師 竹田林太郎製造
製造者 濱口源太郎
馬渡壽造

▲既設電話讓(たし姓名在社)▼

廣告

御宴會御好次第
一品拾五錢より
西洋御料理
京城本町五丁目角
[illegible]洋亭

天氣豫報(自廿二日午後六時 至廿三日午後六時)

北又は東の風曇り少雨 北又は東の風[illegible]天氣[illegible] 北部は降雨に[illegible]

アサヒビール

夏季最良御菓子
紅葉山 松風 泡雪 スワマ 玉葛 クルミプル 饅頭 垂
○食パン
原料精撰
右御申込に依り毎日出來上りしもの配達可仕候
京城本町四丁目
和洋御菓子 パン製造所
貞島事 寒水堂
電話一四一番

建築入札廣告
一本會立小學校增築工事
[illegible]
明治四十一年六月二十二日
新幕日本人會

西の宮た樂の述懷（二十）

◎今度は北海道行

火を落して戸締りをして居るのに何程懇意づくの中だといつてトン／＼を極めるのも何だか氣の毒に思はれましたので茶屋さんへは寄らずに私の家へ二人共落ち付くことにしましたが時間が時間で肴を取りにやる譯にも行かず有合せの佃煮か何かで飲みながら例の相談に掛りましたが追々と醉の廻るにつれ何方からとなく相談に枝が出て纏りがつかずトウ／＼其の晩は小田原評議で二人共醉倒れて仕舞ひましたが明る朝になり双方氣の納まつた所で那ゝの斯うのと考へた末が兎も角も今暫時此のまゝで……といふ矢ッ張相談をしても同じやうな結果になりました併し私が女房への面當に東座の近所に引き越したいといつてチャ／＼張りましたので「ソリや却つて喧嘩の種を蒔くやうなもので餘り宜い考でないが……さいつた所で一旦思ひ込んで言ひ出したお前の事であるからマアー氣の濟むやうにして見るも宜いだらう」と男の同意で家丈は替ゐることにしました、

私も斯うなりやア如何せヤケだといふので東座の近所も近所木戸口と向ひ合せの空家……餘り奇麗でないのを我慢して借り受け軒先に御神燈をブラ下げてやりましたスルト女房が業を煮やして毎日のやうに喧嘩が始まる私はソレを見物してはチットは溜飲を下げて居たのですがトウ／＼其の女房が心得違ひをして座に掛つてた旅役者と駈落ちをして仕舞ひましたので私はズル／＼べつたり女房氣取りで以前のやうに東座に入り込む事になりましたスルト其の男が先代の關三十郎を買ひ込んで來てウンといふ程損をして仕舞つて如何にも斯うにも頬返へしがつかなくなつた所からソレを盛り返す爲めに北海道へ行くことになり私も一時別れなければならぬ破目になりました、

往く時の考ではマヅ二三ケ月といふのでムいましたから私も其の氣で其の男が返る迄には出來る丈ケチにして少しなりた金を殘して置かうと一生懸命稼業に身を入れて稼ぎ約束の三ケ月も經ちましたから今日は歸るか明日は歸るかと毎日首を長くして待つて居りましたが三月はたろか四月經つても歸つて來る模樣はありません此れは何か興行の都合があつての事だらうと思ひましたが併しソレにしても手紙位は寄越しさうなもんだが……と又ウカ／＼一月許り過してトウ／＼五ケ月になりましたが未だ歸りませんモウ我慢が出來なくなつて稼業を休み北海道へ出掛けることゝしました

鳥渡其所らまで遊びに行くのとは違つて仙台から北海道迄の往復と向ふでの滯在を計算して見るとナカ／＼日數が掛りますから會所へは休みを屆ける我家の仕末をつける極く別懇の家へ暇乞に行く忙はしい思ひをしましてヤッと函館へ着きました（つゞく）

一字千金

◎疊製造業並ニ表替　京城永樂町一丁目（赤門前）　横井疊製造所

花莚疊表廉價販賣　京城長谷川町　東亞興業合資會社

西洋洗濯業　確實にて仕事叮嚀　旭町二丁目理事廳裏　伊丹屋

◎日本瓦製造販賣　弊店儀今般左記の所に移轉致し從前の通り營業仕り候間相變らず御愛顧の程伏而奉懇願候　京城古市町（保稅倉庫前）　濱本商店

諸傘並に提灯類　印入　和洋蠟燭あり　京城明治町二丁目　大島商店

移轉披露　京城旭町二丁目八十番戸　理事廳東角上名古屋城の上　佐藤旅館　並に高等下宿　電話八二八番

染物並洗張　迅速叮嚀を旨とし染色鮮麗にして確實なるは本工場の特有なり　龍山元町四丁目（元今村跡）　桑澤工場

西洋洗濯並ニ和服洗張　仕事叮嚀正確　京城長谷川町一丁目卅一番戸　有田組

襖張替　表裝一切　京城本町五丁目　表具師　竹堂

日本澤庵　味噌醬油製造　乾物荒物鑵詰　銘茶食料雜貨　京城本町五丁目　漬物問屋　大上商店（電話二五一番）

諸衙官用御品調達

營業科目

紙類書籍　印刷附屬品　印刷インキ　防腐デシン　穀物食鹽　織物染料　各學校用品調達

幷に委託販賣

東京　合資會社アライアンス商會代理店
横濱　百七番ヒユーム、エンド、ライフ商會代理店
東京　千代田生命保險相互會社代理店
京城　博文館發行書籍特約店
東京　金港堂發行書籍特約店
釜山　臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社　本社　京城明治町二丁目電話二三〇番　出張所　東京京橋區南鍋町一丁目電話新橋三九六二

西洋料理開業御披露

▲西洋料理　一皿金拾五錢　▲カーフー　一杯金五錢
▲アイスクリーム　一杯金五錢　▲チヨクレツ　同拾錢
▲コーコー　金拾錢　▲紅茶　同五錢

右之通り大々的廉價を以て差上可申候尚此外御好に應ド何品にても調理仕候間何卒陸續御來駕の榮を給はらん事を

京城大和町二丁目二百廿七番戸（本町七丁目横入）　陽氣館

登錄商標　ゆりの花　つけて二分間程たてば赤味を帶び白くなる水たしろい　定價　金十五錢　金十二錢

製造本舖　兵庫小物屋町　喜多商店

韓國一手發賣元　京城長谷川町一丁目（電話四百十番）　アイエス商會　取次販賣御申込に應じて其他の化粧品一切販賣仕候

拜啓陳れば各位益々御勇健にて御繁榮の段奉大賀候降拙者今度精白米小賣兼行商を相營候而して向一ケ月は開店披露として左記の直段にて御用命に應じ候間多少に係ず御注文なし被下度偏に御依賴申上候　敬白

尚ほ通信を以て御注文の折は通信料は拙者に於て辨償仕候

上等　五斗八圓十錢　一升十六錢五厘
一等　五斗七圓九十錢　一升十六錢

旭町一丁目五十二番地　渡邊商店

●●驚く可き染色法の進步●●

▲洋服類丸染　但し仕立たる儘
▲帽子類改造

弊店儀今般左記の處に於て開店仕最新流行の良染法と工師特得の技術とにより如何なる古物も一見新物と異ならざる樣頗る完全に染め直し加之も大々的廉價且つ迅速の調達仕候間何卒續々御用命の程伏て奉願上候　敬白

京城新町三丁目十八番戸（井門樓横入）　横濱シライ商會出張所

北山染工場　工師　北山義政　出張員　管谷武之助

●●如何なる古物も新調同樣になる●●

公告

本局事務處理の都合により今二十一日以後不動產利用に關する申請を受理せず

隆熙二年六月二十一日　帝室財產整理局

開業御披露　揚弓場　並に◎コーヒー、紅茶◎氷水一切◎　京城旭町三丁目　花遊亭

◎蒲燒　◎鰻昆布巻　◎鰻八幡巻　◎會席御料理　◎鰻丼　◎柳川鍋　◎すし　京城壽町一丁目　武藏家

本店　仁川理事廳通（電話三二番）　原金旅館　支店　京城南山町（電話一〇七番）

和韓洋　會席御料理並に仕出し　韓洋亭　通大町和軍司令部　電話六三九番

提燈製造張替　諸商店廣告用引札調進　其他印物一切御注文に應ず　京城旭町二丁目（不知火旅館前）　森原商店

●●動物園大會●●

開會　每日午前八時ヨリ
場所　西小門內新報社隣

本園は世界の珍らしき鳥獸を蒐集し江湖諸彥の觀覽に供するものにて從來の興行見世物類とは其撰を異にし動物研究の材料として實物教育の一端に資せん目的なれば紳士淑女の方々が令息令孃を同伴せられて一日の消閑を試みらるゝには最恰好なる娛樂塲なれば陸續御來園の程奉希上候

◎本會の名譽

一、長崎縣知事荒川義太郎氏より感謝狀を贈らる
一、各府縣官公私立學校長より有力なる教育參考品として數千通の謝狀及び證明書を有す
一、鹿兒島步兵第四十五聯隊より感謝狀を贈らる
一、韓國各駐剳軍隊より感謝狀を贈らる
一、日韓各學校より感謝狀を贈らる

四十一年六月　六車萬國動物園

御料理　御會席　壹圓　同　七十五錢　同　五十錢　京城本町九丁目　小松亭

會席御料理仕出し　京城本町八丁目　富士見樓

開業御披露　ビヤホール

初夏の日影さはやかに清風涼しき兎根山分けて綠蔭の其中に獨り立ちぬるビヤホール佳なる風景と清涼の美味なるは皆樣方の御遊來に叶ふべし

本町九丁目大和町三丁目三方より中央兎根山上新町遊廓より上る　兎茶屋

貸地

一龍山元平式院前軍司令部拾五間道路左側約五千坪

但し五十坪を一區として割貸　右將來多望の地貸附中度候條御希望の御方は左記へ御來談被下度候也

京城明治町一丁目　森村太郎
京城本町二丁目　林田金次郎

統監府御用　諸官衙人力車　荷物荷造及運搬　伊藤組
本店　京城曙町（電話七三番）
營業　同本町三丁目（電話四〇番）

一各種石炭大販賣
大の浦塊炭　豆田塊炭　大辻塊炭　三池粉炭
ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦、芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社　京城出張所（電話二十六番）　仁川出張所（電話六十三番）

日本郵船株式會社仁川出帆廣告

●釜山長崎門司神戶行　山東丸　七月五日　後一時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行　第一オハヨ號　月日　後三時出
　釧路丸　月日　後三時出
●大連、大沽、牛莊行　高砂丸　七月廿三日　後一時出
　山東丸　六月廿三日　前五時出
●大連、大沽、牛莊行　酒田丸　七月二日　後一時出
●鎮南浦行　第一オハヨー號
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行　弘前丸　七月一日　後三時出

御注意　御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ離岸ス

貨物及船客取扱店　仁川海岸通　郡回漕會（電話三九番）　京城南大門通　巴商店（電話三〇六番）